

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	美術と社会 (Art and Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「日常と非日常」、「象徴性」、「不可視」の美術		
担当者名 (Instructor)	毛塚 実江子(KEZUKA MIEKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

西洋美術史の通史から一歩進み、各テーマに沿って作品を紹介する。興味を持ったテーマによる作品分析、考察をする力を養う。

Students are to be introduced art works with specific themes.in Western art history.Deepen the knowledge of Art history and understand universality of the works.

授業の内容 (Course Contents)

美術表現における「日常と非日常」、「象徴性」、「不可視」をテーマにし、各時代、社会においてそれらがどのように描かれてきたかを追う。通史から一歩離れ、テーマごとに主題を深めていく形式である。扱う時代はヨーロッパ古代から中世のキリスト教社会が中心となるが、現代美術も視野に入れた考察となる。

Seeing Western Art history from the point of each theme;Things Usual and unusual,Drawn Symbols,Invisibility.Analysis and consideration is needed according to each themes.The era that mainly deals with is Medieval. Ancient and Contemporary Art will be introduced as comparison.

授業計画 (Course Schedule)

1. 日常と非日常1ギリシア神話と美術—パンアテナイア祭などの神々の祭り、オリンピック、神話の表現。
2. 日常と非日常2ローマ建築と美術:ポンペイ遺跡の日常、コロセウム、墓廟、凱旋門などの建築。
3. 日常と非日常3キリスト教美術と終末論:古代末期から中世末期までを通じた神の再臨と最後の審判。
4. 日常と非日常4旅と巡礼:ロマネスク期の聖遺物崇敬や巡礼路の教会建築を見る。
5. 日常と非日常5祝祭の美術:クリスマスや謝肉祭の源流を古代から中世まで辿る。
6. 美術と象徴1象徴的な表現とは:記号的表現から象徴主義、コンセプチュアルアートまで。
7. 美術と象徴2動物の象徴性:供犠の獣、古代ギリシアのフィシオロゴスから中世のベステリアリまで。
8. 美術と象徴3植物の象徴性:古代ギリシアやイスラムの建築、アールヌーボー、ジョーンズまで。自然というキーワードも併せて考察対象とする。
9. 美術と象徴4擬人化表現:獣と人との混合、古代メソポタミアからギリシア・ローマの「古典」まで。
10. 不可視の美術1神の表現:キリスト教を中心にどのような表現で神が表されたかを見る。
11. 不可視の美術2夢の表現:旧約聖書のお告げからゴヤの版画シリーズのような近代の幻想までを見る。
12. 不可視の美術3天使と魂の表現:古代からクレイまで追う。
13. 不可視の美術4悪魔と地獄、怪物の表現:キリスト教を中心に古代からブレイクまで追う。
14. 不可視の美術5驚異の表現:世界地図と中世の東方譚からルドルフ2世まで。

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

全カリ科目であるため、美術史の通史を修めている必要はないが、高校世界史程度の知識があるほうが望ましい。授業後に歴史的背景の復習を行うと理解が深まるだろう。

授業で扱ったテーマを用いたレポートを出題するので、興味をもった作品をより深く調べておくとよい。レポートには参考文献、信頼できる資料を添えることを条件とするので、早い時点で資料を集めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(40%)/各回のリアクションペーパー(40%)

レポートの課題は「いずれかの回のテーマを選び、具体的な作品の一つ以上挙げて独自に調査を行い、レポート形式に整えて1500-2000字にまとめる」を予定している。必ず参考文献を付して提出すること。

テキスト (Textbooks)

適宜レジュメで関連文献や資料を紹介する。

参考文献 (Readings)

適宜レジюмеで紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

適宜レジюмеで紹介する。

注意事項(Notice)